

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業コード 611-01-05

事務事業名		市民生涯学習講座開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		陵南の森公民館		連絡先		072-952-2751	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	1	生涯学習		款	10	教育費
	施策の方向	1	生涯学習の機会と内容の充実		項	5	社会教育費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	生涯学習を希望する市民、在勤者、在学者					
	目的 (どうしたいか)	対象者が生涯学習を行う中で本人の個性や能力を伸ばし、自己実現や問題解決につなげられるようにする。最終的には、経験豊かになった対象者が新しいコミュニティ形成を促すため、場や機会を提供する。					
	手段 (事業内容)	多種多様な講座や教室を開催し、グループ育成を意識した事業の展開をする。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当初予算額	事業費	1,661	1,834	1,521
決算額	事業費	1,353	780	-
	特定財源等	337	167	-

≪主な内訳(令和2年度決算)≫

【事業費】	780千円
内訳:	○委員報酬 21千円
	○報償費 543千円
	○消耗品費 92千円
	○食糧費 10千円
	○教材費 20千円
	○郵便料 9千円
	○備品購入費 39千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	市民生涯学習講座、子ども企画及び共催事業回数	単位	回	
指標の説明	1年間で、開催した講座回数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		79	70	70
実績		69	30	-

【特定財源】  
歳入(各種講座等参加費)167千円

≪事業の参考数値等≫

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	市民生涯学習講座、子ども企画及び共催事業受講者数	単位	人	
指標の説明	1年間で、開講した講座受講者数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		1,300	900	900
実績		972	464	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市民要望により、少人数制の講座を開催することで、順調良く市民ニーズに応えた生涯学習機会を提供しており、また、市民の新しいコミュニティ形成の場としても促進しており、講座開催の意義は高いと考える。 *新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休館となっている期間があったため、利用人数は減っている。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
今後も更なる講座開講の周知等受講促進に努めつつ、良質な事業の充実を図ればと考える。

# 令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業コード 612-01-01

事務事業名		生涯学習自主活動促進事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-952-2751	
担当部署名		陵南の森公民館		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	1	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	2	生涯学習を支える環境づくり		目	5	公民館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	生涯学習自主的学習グループ、陵南の森公民館グループ連絡協議会					
	目的 (どうしたいか)	対象グループが自主的な生涯学習活動をし、市民誰もがその活動に参加出来るよう機会の提供をする。加えて陵南の森公民館グループ連絡協議会のグループ相互支援や市民交流活動の機会の提供をする。					
	手段 (事業内容)	対象グループへの生涯学習活動支援をするために、公民館が登録認定をする。陵南の森公民館グループ連絡協議会への活動の一助になるよう公民館が支援する。					

予算・決算額				(単位:千円)	≪主な内訳(令和2年度決算)≫	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	<b>【事業費】 349千円</b> 内訳: ○委員報酬 21千円 ○消耗品費 50千円 ○クリーニング代 0千円 ○ピアノ調律費 11千円 ○シルバー人材センター委託料 0千円 ○備品購入費 38千円 ○助成金 229千円	
当初予算額	事業費	744	1,023	671		
決算額	事業費	734	349	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標				(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			
指標名		市民生涯学習講座、子ども企画及び共催事業回数		単位	回		
指標の説明		1年間で、社会教育活動の為に施設を使用した団体の延べ件数。					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度			
目標(見込)		2,800	2,400	2,400			
実績		2,468	1,596	-			

成果指標				(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名		グループ(団体)の施設使用人数		単位	人		
指標の説明		1年間で、社会教育活動の為に施設を使用した延べ人数。					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度			
目標(見込)		40,000	34,000	34,000			
実績		34,781	19,002	-			

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	<b>現状維持</b>
(担当部局による総合評価の理由や課題) 市民の自主的な生涯学習活動の拠点として活動の促進になっている。また、市民が随時に学習参加可能な一面があり、当該事業の実施意義は高いと考える。 *新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休館となっている期間があったため、利用人数は減っている。	

今後の改善内容	(令和3年度以後の事業実施への改善内容) 今後も当該事業の周知等により参加人数の促進に努める。
---------	--